

# 日本史 B

(4 問題 100 点)

## I 日本史 B 問題

(20 点)

次の史料(A～C)を読み、問(1)～(17)に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。なお、史料の表記は便宜上、改めたところがある。

A

言上

条々

### 一 朝務等の事

右、先規を守り、ことに  を施さるべく候。但し、諸国の受領等、<sup>(a)</sup>もつとも計らい御沙汰あるべく候か。東国・北国両道の国々、謀反を追討するの間、土民なきが如し。今春より、浪人ら旧里に帰住し、安堵せしむべく候。しからは、来秋のころ、国司を任せられ、吏務を行われてよろしかるべく候。<sup>(c)</sup>

### 一 平家追討の事

右、畿内近国、源氏・平氏と号して弓箭に携わるの輩ならびに住人等、<sup>(d)</sup> の下知に任せて、引率すべきの由、仰せ下さるべく候。海路たやすからずといえども、ことに急ぎ追討すべきの由、 に仰するところ也。勲功賞においては、その後頼朝計らい申し上ぐべく候。<sup>(e)</sup>

(中略)

寿永三年二月  
(注)

源頼朝

(『吾妻鏡』)

(注) 寿永三年は 1184 年である。

問

- (1)  には、優れた政治、過去の優れた時代に戻ることを意味する語句が入る。漢字2字で記せ。
- (2) 下線部(a)の「受領」には、この当時、一国の支配を委ねられた有力者の関係者が任命されることがあった。特定の国の支配を有力者に委ねる制度を何と呼ぶか。
- (3) 下線部(b)の「東国・北国両道」とは、令制で規定された七道のうち、源義仲が基盤とした2つの道を指す。その名称を2つとも記せ。
- (4) 下線部(c)の「吏務」とは国司の任務を指す。具体的にはどのようなことか。漢字2字で記せ。
- (5) 下線部(d)に記されたような者は、平安後期から鎌倉前期にかけて、多数存在していた。これに当てはまる人物を次の①～⑤のうちから1つ選び、番号で答えよ。
- ① 源頼家    ② 平頼綱    ③ 源頼政    ④ 平忠常    ⑤ 源高明
- (6)  に当てはまる武将は、後に頼朝と対立し、陸奥国で殺害される。その武将とは誰か。
- (7) 下線部(e)について、頼朝が朝廷に対し「計らい申し上」げるとした「勲功賞」とは、具体的にどのようなものか。漢字2字で記せ。

B

農人は、一日も天の時、地の利をつつしみ、従ふ事なくんば有るべからず。耕穫収芸、みな天の時にして、曆の用なり。曆は朝廷の政事にして、民の時を授けたまふ。(巻二)<sup>(f)</sup>

耕作農業の事、唐土の書に多く見えたり。近代本朝の学士、農業の和書をあらはし、印行して、といへるあり。農人これを読み見るべし。(巻二)

唐土の風俗には、農家・商家の子も学才次第に官位に昇り進み、あるひは宰相に至りて、天下の政道を主どり、国家を治め、万民を安泰ならしめ、名を揚げ父母を顕す忠孝、是より大なるはなし。此故に農民・商家の子も、学文して官を得、身を立てんとす。しかれば本朝の学はこれに異なる也。本朝にも古より学者多かりしかど、庶民より出て、国家の政道を主どりし例なし。(巻三)<sup>(g)</sup><sup>(h)</sup>

(出典) この史料は、西川如見(1648-1724)が著した『百姓囊』<sup>ぶくろ</sup>という書物から3カ所を抜粋したものである。

問

- (8) 下線部(f)にいう朝廷の曆が不正確になったとしてこれを改定し、その後、幕府の天文方となった人物は誰か。
- (9) には、日本で最初に出版された体系的農書の書名が入る。その書名を記せ。
- (10) 右の2つの図 $\alpha \cdot \beta$ は、の書物の冒頭に付された「農事図」の一部である。
- (あ) 図 $\alpha$ の作業で、男性が牛に引かせている農具を何というか。
- (い) 図 $\beta$ の作業で、女性たちが手に持って使っている農具は、やがて労働生産性を大きく向上させたものに改良された。その改良後の農具を何というか。

図 α



図 β



- (1) 下線部(g)にいう、庶民でも「学才次第に官位に昇り進」むことを可能とした「唐土」の人材登用制度を何というか。
- (2) 下線部(h)のような状況をふまえ、西川如見が最晩年に面会した將軍のもとで、武士身分ではない庶民が国政や民政についての意見を建白できる制度が設けられた。
- (あ) この制度のために、評定所などに設置されたものを何というか。
- (い) この制度を利用して、江戸の町医者 of 建白で設けられた施設を何というか。

C

九月三日

上京。暑い日を焼あとを歩いて首相官邸へ行く。(中略)総理の宮の演説原稿の文章を書くのかと思ったら太田君に会うとそうでない。<sup>(i)</sup>参内前でいそがしい時間を宮の部屋へ伺うと「この度内閣参与になってもらう。しっかり頼みます」と上を向いて笑いながら云われ、こちらはお辞儀をして退室して来た。

九月十八日

首相宮，<sup>(j)</sup>連合軍記者団と初会見。

九月二十七日

十一時少し過ぎ殿下に会い、エ その他の法令の廃止、暴力行為の嚴重取締につき進言。この内閣の使命が積弊をブチコワスことにあり、国民もそれを期待すと話す。

問

(13) 下線部(i)に関して、

(あ) 次の①～④には、「総理の宮」が首相在任中に起こった出来事として正しいものが1つ含まれている。その番号を記せ。

- ① 労働組合法の制定                      ② 農地改革の実施  
③ 持株会社整理委員会の発足          ④ プレス＝コードの公布

(い) この「総理の宮」の内閣で外務大臣を務めた人物は、後に五次にわたって内閣を組織している。その人物の首相在任中に設置された、石炭・鉄鋼・肥料などの産業への資金供給を目的とした政府金融機関は何か。

(14) 下線部(j)に関して、ワシントンに設置されることになる対日占領政策の最高決定機関は何か。

(15)  には、日清戦争後に公布され、集会・結社や労働運動・農民運動などの取り締まりを目的とした法令が入る。その法令名を記せ。

(16)  公布の翌年、この法令に基づき結成直後に解散を命じられた日本最初の社会主義政党は何か。

(17) 史料Cの著者は、1920年代に執筆した『鞍馬天狗』や『赤穂浪士』などの小説で著名になった作家である。その人物は誰か。

Ⅱ 日本史B問題

(20点)

次の文章(①～⑩)の [ア] ～ [ト] に入る最も適当な語句を記せ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。

- ① 鎌倉時代には、康勝の作とされる六波羅蜜寺蔵の [ア] 上人像など写実的な彫刻が作られた。また肖像画においても、人物を写実的に描く似絵が多く制作されたが、 [イ] の作とされる「伝源頼朝像」など、似絵に描かれた人物が誰であるかについては、今日ではさまざまな議論がある。
- ② 北朝・南朝の分裂は、足利尊氏が後醍醐天皇に対抗して [ウ] 天皇を擁立したことに始まった。内乱が全国化・長期化する中、幕府は [エ] の権限を強め、これに荘園年貢の半分を兵糧米として与えるなどした。
- ③ 鎌倉公方 [オ] が將軍足利義教に滅ぼされた後、その末子が新たな鎌倉公方に任ぜられた。しかし、その新公方が1454年に関東管領を殺害したことを契機に [カ] が勃発したため、京都の応仁の乱より一足先に関東は混乱に陥った。
- ④ 鎌倉・室町時代には商業・流通が高度に発達し、遠隔地間の決済には、商人が発行した [キ] がしばしば用いられた。また京都やその周辺では、朝廷や寺社と結びついて特権を得る商人集団があり、大山崎離宮八幡宮に属する商人らが [ク] の製造・販売の独占を主張したのはその一例である。
- ⑤ 安土桃山時代になると、城主の権威を象徴する高層の [ケ] を備えた城郭が建設されるようになった。江戸城の [ケ] は明暦の大火で焼失したが、民政の安定に力を尽くして名君といわれ、將軍徳川家綱を補佐した会津藩主 [コ] の反対により、再建が見送られた。
- ⑥ 徳川家康は、肥前国の [サ] にオランダとイギリスの商館を置くことを許した。家康の外交顧問であったイギリス人 [シ] は、このイギリス商館の経営に協力し、後に朱印船主となって安南・東京<sup>トンキン</sup>に渡航した。

- ⑦ 関ヶ原の戦い以降、江戸幕府は街道を整備し、街道沿いでの取引を安定させるため、良銭の基準や銭貨の交換比率を定めるなど、 をめぐる法令をくり返し出した。しかし、1636年には、 という新しい銭を発行し、銭の統合がはかられたため、 を必要とする経済は終息した。
- ⑧ 江戸時代に入ると、この世のさまざまな事象を描いた絵画が普及した。 が『好色一代男』で「浮世絵」と称したこの絵画は、当初肉筆(手描き)が盛んであったが、17世紀中頃から、大量制作の可能な版画が広まった。版画は、墨一色で始まり、やがて色を重ね刷りする技術が生まれ、18世紀後半になると、 と呼ばれる多色刷版木の技法が確立した。
- ⑨ 明治中期には、松原岩五郎の『最暗黒之東京』や横山源之助の『』など、貧困層の生活を描くルポルタージュが多く世に出た。前者の発行元である民友社を創設した は、いわゆる平民主義を主唱して、三宅雪嶺らと論争をくり広げた。
- ⑩ 第一次世界大戦がもたらした大戦景気のもと、1915年から18年まで日本の貿易は 超過となった。他方で、工業労働者の増加や人口の都市集中などによる米の消費量増大に加え、 出兵を見込んだ米の買い占めによって米価は急騰し、ついに全国的な米騒動へと発展した。



Ⅲ 日本史B問題

(30点)

次の文章(A～C)の  ～  に最も適当な語句を記し、問(1)～(15)に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。

A

律令国家において、畿内と七道に編成された各国を結ぶ官道は、できる限り直線的に築造された。官道沿いには、一定の距離をおいて駅家が設けられ、規定に従って一定数の馬が配置された。また、各国の政務・儀礼を行う施設が集まった国府や、 天皇の詔によって建立された国分寺・国分尼寺なども、官道近くに位置する場合が多い。官道は、税として各地の産物を都に運ぶための運搬路であり、宮城の警備を行う  や、九州沿岸を警備する防人の任につく人々の移動路でもあった。官道の要所には関が設けられた。特に、近江国を取り囲むように作られた伊勢国の鈴鹿関、美濃国の  関、越前国の愛発関の三関は重要である。

一方、日本列島の海岸沿いや、朝鮮半島・中国大陸との間の交通には、船が用いられた。古墳の墳丘上に配置された船形  や出土した船材の検討により、弥生時代以降には、丸木舟にげんそくぼん 縦板や舷側板などを組み合わせた大型船(準構造船)が用いられるようになったことがわかる。しかし、船の構造が改良されても、海を横断しての航行にはさまざまな危険が伴った。例えば遣唐使の場合、新羅と日本との関係が悪化して、朝鮮半島沿いの航路から、東シナ海を横断する航路へと変わったために、船がしばしば遭難したことが記録されている。<sup>(d)</sup> そのため、古代の人々はさまざまな方法で航行の無事を願った。古くは『三国志』魏書東夷伝倭人条にそのような記事がみえる。また、<sup>(e)</sup> 玄界灘に浮かぶ小島であり、ユネスコの世界文化遺産に登録された  で行われた祭祀の目的の1つは、航行の無事を祈ることにあつたと考えられる。

## 問

- (1) 下線部(a)に関して、畿内に属する5つの国のうち、現在の大阪府と兵庫県にまたがって存在した国の名称を記せ。
- (2) 下線部(b)に関して、927年に完成した、駅家に関する規定を含む、律令の施行細則集の名称を記せ。
- (3) 下線部(c)に関して、さまざまな貢納物を都に運ぶ人を何というか。
- (4) 下線部(d)に関して、乗っていた船が遭難し、失明しながらも、日本に渡って戒律を伝えた中国僧が、平城京内に建立した寺院の名前を記せ。
- (5) 下線部(e)に関して、本記事において239年に魏の皇帝に使いを送ったことが記録されている王の名前を記せ。

B

平安後期・鎌倉前期には、日本の僧侶が中国に渡り、新たな仏教に触れる機会はあったが、帰国後、日本における既存の仏教との間でさまざまな妥協が必要であった。中国に2度渡り、最新の禅宗を伝えた栄西もその1人で、彼は著書『カ』で、自らの没後50年がたつと、中国風の禅宗が興隆すると記した。そして、1246年に中国僧キが来日し、1253年には執権クの援助を得て建長寺の落慶供養が行われ、栄西の予言が現実のものとなっていった。キがもたらした禅宗は、南都仏教などそれまで日本(f)で勢力を持っていた仏教とは、経典の読み方や儀礼のあり方が全く異なっており、当時の中国で行われていた仏教がそのままの形で伝えられた。そのため、禅宗寺院を統率するための新たな制度も創始された。

(g) 日中間の文化的交流とともに、鎌倉後期には、大量の中国銭が日本に流入することにより、日本社会は大きな影響を受けた。貨幣経済の進展に伴い、(h)経済的な苦境に陥った御家人が増加するなど、さまざまな社会的問題が発生したのである。

平安後期から南北朝時代にかけて、中国の王朝である宋・元とは、正式の外交関係はなく、人や物は私的な商船により往来していた。しかし、中国で明が建国され、新たな国際秩序の構築が進むなか、1401年、足利義満は明に博多の商人ケらを使者として派遣し、正式の国交が開かれることになった。日明貿易においては、明から交付されたコと呼ばれる証票を持つこと(i)を求められており、宋・元の時代に比べると人や物の行き来はかえって制限を受けることになった。

問

- (6) 下線部(f)に関連して、当時、大和国の守護権を実質的に担い、南都で最も勢力のあった寺院の名称を記せ。
- (7) 下線部(g)について、鎌倉後期から幕府は禅宗寺院の寺格を定め、その住持(長たる僧侶)を補任することになった。その制度の名称を記せ。
- (8) 下線部(h)に関連して、窮乏した御家人は所領の減少をくい止めるための対策をとらねばならなかった。女子への所領分割を本人限りとし、死後は惣領に返却する相続のあり方を何と呼ぶか。漢字3字で記せ。
- (9) 下線部(i)について、
- (あ) 15世紀後半には、日明貿易の実権は細川氏と大内氏の手に移るが、両者が1523年に中国で衝突した事件の名称を記せ。
- (い) (あ)の事件以降、大内氏が日明貿易の実権を握り、大内氏の滅亡とともに事実上、貿易も断絶する。謀反を起こし、大内義隆を自害に追い込んだ家臣の名前を記せ。

C

江戸幕府は諸大名を圧倒する軍事力を保持していた。その軍事力の中核となったのが旗本・御家人であり、旗本は知行高に応じて人馬・武器を保持し、従軍する サ という負担を課された。武芸の鍛錬を求められたが、行財政官僚としての力量が重視される泰平の世となると、これになじめず、異様な風体で江戸市中を練り歩いたり、乱暴を働いたりする旗本・御家人もいた。<sup>(j)</sup>

幕府は軍事力を維持するため強い経済基盤を確立したが、17世紀後半以降、財政は悪化していった。そこで徳川吉宗は シ を設けて優秀な旗本の登用を容易にし、財政再建をはじめ諸改革を行った。大岡忠相も登用された1人であり、町奉行として江戸市制の整備に尽力した後、寺社奉行を務め、大名になった。<sup>(k)</sup><sup>(l)</sup>

18世紀後半になると、経済的に困窮したり、風紀を乱したりする旗本・御家人への対策が必要になった。そこで老中松平定信は、旗本・御家人に対する ス の債権を破棄・軽減する法令を発して救済した。また、学問を奨励し、学力試験を実施した。この学力試験は人材登用の参考ともなり、文人として知られる大田南畝は優秀な成績を上げ、勘定所の役人に登用された。<sup>(m)</sup><sup>(n)</sup>天文方の役人として活躍し、シーボルト事件で獄死した高橋景保も成績優秀者であった。<sup>(o)</sup>

問

- (10) 下線部(j)に「異様な風体で江戸市中を練り歩いたり，乱暴を働いたりする」とあるが，このような旗本・御家人・町人などを総称して何というか。
- (11) 下線部(k)の「財政再建」に関して，
- (あ) 財政難のため，大名に対して領知高1万石につき米100石の献上を命じた幕府の政策を何というか。
- (い) 幕府は，年貢高を安定・増加させるための諸施策を実施した。その1つであり，一定期間，年貢率を固定する年貢徴収法を何というか。
- (12) 下線部(l)の「江戸市制の整備」として，町人による消防組織である町火消の結成がある。この町火消とともに，江戸の消防を担った旗本を長とする消防組織を何というか。
- (13) 下線部(m)について，正学として奨励され，「学力試験」において試された学問は何か。
- (14) 下線部(n)に関して，「大田南畝」は狂歌をはじめ文芸界で活躍し，町人たちとも親交があった。その1人で，『仕懸文庫』などを著したことによって，幕府により処罰された洒落本作者は誰か。
- (15) 下線部(o)の「高橋景保」は，通商関係の樹立を求めて長崎に来航したある外国使節が持参した国書の写しを，後に翻訳した。この外国使節は誰か。

**IV****日本史B問題**

(30点)

次の問(1)、(2)について、それぞれ200字以内で解答せよ。解答はいずれも所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

- (1) 日本の9世紀の文化と10・11世紀の文化の特色を、対比的かつ具体的に述べよ。
  
- (2) 一橋慶喜が、1862(文久2)年に将軍後見職に就任し政治の中心に登場したのは、薩摩藩の推挙によるものである。しかし1866(慶応2)年に徳川家を相続し、将軍となった慶喜に薩摩藩は敵対した。これは薩摩藩の政治方針のどのような変化によるものか。1863(文久3)年から慶喜将軍就任までの間における薩摩藩の動きについて説明せよ。

日本史B問題は、このページで終わりである。